

令和 3 年度 若松原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤として，高い知識と豊かな心，たくましさを身につけ，地域社会や国家，世界に広く目を向けた人間を育成する。

（2）具体目標（目指す生徒像）

- ① 自ら学ぶ生徒 ② 心豊かな生徒 ③ たくましい生徒 ④ 視野の広い生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「あたたかい学校，活力のある学校，人の集まる学校」

生徒一人ひとりを目指す生徒像に近づけるためには，地域学校園の小中学校，家庭，地域が連携しながら，それぞれの力を発揮していくことが重要である。本校がその核としての役割を自覚し，関わる人々の希望となれるよう，目指す学校像（3つの柱）を掲げる。

- ・ 明るいあいさつや花と緑にあふれ，互いに認め，励まし，称え合える，あたたかい学校
- ・ 地域社会や将来を見据え，子どものよさが十分に活かされる，活力のある学校
- ・ 生徒や教職員が誇りに思い，地域のコアとなり，地域に愛される，人の集まる学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）あたたかい学校

- ・ 心の教育，望ましい人間関係づくりを図る ・ 学びやすい，生活しやすい環境を整備する
- ・ 花と緑を大切にしたい潤いある環境を整備する ・ 教職員の資質向上と健康管理に努める

（2）活力のある学校

- ・ 学業指導の充実に努める ・ 積極的な生徒指導を推進する
- ・ 特別支援教育の視点を十分に生かす ・ 体力・気力の向上と健康教育を推進する

（3）人の集まる学校

- ・ 生徒が楽しいと感じる学校づくりに努める ・ 地域の人材，資源を活用した教育を推進する
- ・ 職員が働き甲斐のある職場づくりに努める ・ 地域活動や災害時避難場所として活用する

【若松原地域学校園教育ビジョン】

「つなげよう学び きたえよう心と体 共にのびようWGS学校園」

9年間の学校教育にかかわる教職員が，その思いと責任を共有し，連携して児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある指導を継続的に実践する。

4 教育課程編成の方針

Society 5.0の到来を見据え，子どもたちが地域や国家・世界とのつながりの中で生活していることを自覚し，広い視野で物事を見て，考え，判断し，行動しようとする意欲と態度をもてるよう，教育課程と指導体制を工夫する。

- （1）日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び学習指導要領の関係法令，及び県教育行政基本方針，市教育委員会管理運営規則，市学校教育スタンダードの示すところに従って編成する。
- （2）地域や学校の実態を踏まえ，生徒の心身の発達段階や特性を十分考慮しながら，人間として調和のとれた育成を目指して特色のある教育課程を編成する。
- （3）小中一貫教育，GIGA スクール，宇都宮学の趣旨を生かし，学校教育全般にわたる教育活動の充実を目指して，適切な運用が図れるよう配慮して編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

令和 3 年度 若松原中学校スローガン 「挑戦」

（1）学校運営 ～教育目標の達成を目指すチーム学校づくり～

- ・ 生徒や家庭，地域，関係機関等と学校教育目標や学校経営の理念を共有し，その達成に向かう集団づくりの推進に努める。
- 教職員が一丸となって学業指導にあたり，業務の効率化と働き方改革を進める。
- ・ 学校の公開や情報発信を積極的に行いながら，地域のコアとして愛される，開かれた学校づくりの推進に努める。

（2）学習指導 ～子どもが意欲的に取り組む授業，学びに向かう集団づくり～

- ICT機器の利点を生かし，主体的，対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る。
- ・ 生徒の学習意欲の向上を図るための教材，教具の工夫改善に努める。
- ・ 学力の定着のために，家庭学習の習慣化と質の向上を図る。

（３）児童生徒指導 ～ともに成長できる集団づくりと自己指導能力の育成～

- ・共に課題に立ち向かい、互いに認め、励まし、称え合うことで、自他共に成長できる集団づくりを推進する。
- ・自ら考え、判断し、責任を持って実行できる自己指導能力の育成・向上を図る。
- ・困難を克服し失敗から立ち上がる力（レジリエンス）の育成に努める。
- 自己肯定感、自己有用感をはぐくむ教育相談に努める。

（４）健康・体力・保健安全 ～強い体、折れない心、健康的な生活を目指して～

- 基礎体力の向上と粘り強く取り組む意欲を養うための指導方法を工夫改善する。
- ・自他の生命や心の健康を大切にし、安全で豊かな生活を送れるよう、全教科領域でカリキュラムマネジメントを推進する。
- ・感染症対策や防災教育を通して、危機に対応できる能力の育成を図る。

６ 自己評価（評価項目のＡは市共通、Ｂは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、Ａ拡充 Ｂ継続 Ｃ縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 1 の生徒の肯定的回答が 85%以上	・授業の振り返りにおいて、「主体的に学習に取り組む態度」の自己評価をさせ、主体的な取組を促す。 ・学習方法の指導を充実させ、家庭学習に進んで取り組ませる。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 評価項目 A 2 A11 の生徒の肯定的回答が 85%以上	○道徳の授業において、思いやりについて深く考える場面を設定するとともに、教育活動全体を通して思いやりの心を育む。地域学校園でも重点項目として推進する。 ・福祉教育の充実を図り、障害をもった方や高齢者などへの思いやりの心を育てる。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 評価項目 A 3 の生徒の肯定的回答が 85%以上	○家庭や地域に生徒の様子を理解していただき、ルールや法律を遵守する判断力と行動力が身に付くよう、見守りを要請する。 ・日常的な心の教育のさらなる充実と、教科となった道徳の時間の指導方法の改善を図る。 ・生活マナー等においては、学校生活のあらゆる場面でその都度指導していくとともに、家庭や地域へ協力を要請していく。 ・毎月の生徒指導目標に対しての目標達成シートを記入させ、自分の行動を振り返らせるとともに、目標をもって行動ができるようにする。		【達成状況】 【次年度の方針】

A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 評価項目 A 4 の生徒の肯定的回答が 90%以上	・生徒会生活委員会を中心に「礼節週間」を実施し、授業開始終了時の「語先後礼」のあいさつの拡大を図る。 ○地域学校園での生徒会のあいさつ運動を通して、リーダーの育成を図る。 ・「あいさつ運動」や登下校指導を通して、地域との結びつきを強め、地域全体であいさつが飛び交う雰囲気作りを中学校から発信していく。また、地域社会の一員であるという自覚を持たせ、地域のために協力していく心を育てていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 5 A 7 の生徒の肯定的回答が 80%以上	・新学期の始めに目標を立てさせ、学期末に評価を行う。 ・学習や部活動、学校行事など目標をもって取り組ませ、生徒同士がお互いに励まし合いながら、より高い目標に向かって努力する態度を育てる。 ・努力、がんばりを賞賛し合う雰囲気づくりを行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 評価項目 A 6 の生徒の肯定的回答が 80%以上	・保健体育委員会を中心に、昼休みの運動を呼びかける。 ・手洗い、マスクの着用、3密回避など進んで行わせ、新型コロナウイルス感染症等の感染症の予防に努めさせる。 ○地域学校園内で連携を図りながら、食育の充実を図る。 ・給食指導、学級活動等で栄養のバランスが大切であることを理解させるとともに、その実践が健康な生活につながることを継続して指導いく。 ・避難訓練や交通安全指導等で危険回避能力や判断力を養う。 ・毎月行う安全点検を教職員と生徒が一緒に行うことで、生徒の安全管理への意識づけを図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 評価項目 A 5・A 7 の生徒の肯定的回答が 80%以上	○地域学校園内で発達段階に応じたキャリア教育を系統立てて行う。 ・「社会人講話」や「宮チャレ」での体験を生かして、働く意味を各自で考えさせる。 ・キャリアパスポート、キャリア教育アンケートを活用し、将来に向けた自分像を描き、目標をもって学校生活が送れるようにさせる。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 評価項目 A 8 の生徒の肯定的回答が 80%以上	○小中で一貫して、英語のコミュニケーションスキルを習得させる。 ・英語の授業に生徒同士や A L T と英語を使って交流する学習を多く取り入れる。 ・身近な場面で使える会話例を指導する。	【達成状況】 ・ 【次年度の方針】 ・

A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 評価項目 A 9 の生徒の肯定的回答が 80%以上	・社会科や総合的な学習の時間で地域や宇都宮のことを学び、自ら課題を設定して追究する学習を通して、新たな知識の獲得を図るとともに、宇都宮の良さを発見させる。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 10 生徒は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 評価項目 A 10 A 25 の教職員の肯定的回答が 80%以上	・授業において生徒が端末を活用し、学習を進めるように指導する。 ・図書館利用のガイダンスを全学年で年 1 回以上行い、生徒が学習に活用しやすいようにする。 ・I C T 機器（端末、デジタル教科書、デジタルカメラ等）の活用法について啓発を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 評価項目 A 2 A 11 の生徒の肯定的回答が 85%以上	・道徳の授業において、高齢者への思いやりを育てる題材を取り入れたり、地域へのボランティア活動を通して、高齢者と接する機会をつくったりして、感謝といたわりの心を育む。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 評価項目 A 12 の教職員の肯定的回答が 80%以上	・総合的な学習の時間を中心に、社会科、国語科、理科、保健体育、技術家庭科などの教科において、エネルギー、資源、防災、感染症の問題を取り上げ、生徒たちに議論させる。 ・校内の掲示コーナーに環境問題を啓発するようなポスターやチラシを貼るなど生徒の関心が高まる環境をつくる。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 評価項目 A 13 の教職員の肯定的回答が 80%以上	・教育相談を充実させ、生徒一人一人の困り感の把握に努める。 ・特別支援教育校内支援委員会や特別支援教育部会において特別な支援を要する生徒について共通理解を図り、適切な対策を講じる。	【達成状況】 【次年度の方針】

目 指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 評価項目 A14 の生徒の肯定的回答が 90%以上	・毎日の校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談やいじめ調査等を活用し、いじめへの早期対応や早期発見・未然防止に努める。 ・全校生徒による「いじめゼロ標語」の作成と、生徒会生活委員会を中心となって「いじめゼロポスター」の作成や呼びかけなどを実施する。 ・学校のいじめ対策について、保護者会やホームページ、学年通信等、あらゆる機会を利用して周知していく。 ・いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 評価項目 A15 の生徒の肯定的回答が 80%以上	・1日休んだら電話連絡、2日休んだら家庭訪問の原則を守り、いきしぶり等の早期対応を図る。 ・生徒同士がお互いを認め、励まし合える学級の雰囲気作りに努める。 ・学習室(別室)の環境整備と学習支援の充実を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 評価項目 A13A16 の教職員の肯定的回答が 80%以上	・国際理解や異文化理解の教育の推進を図り、違った習慣や考えをもった生徒へ理解を示す態度を育てる。 ・日本とは違った思考にも寛容に対応し、生徒の実態に応じた配慮を行う。 ○地域学校園内や他区から転入学してくる外国人生徒の情報を迅速に集め、登校初日から対応できるような校内体制を作れるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 評価項目 A17 の生徒の肯定的回答が 85%以上	・居がいのある学校をめざし、学校行事等生徒が主体的に活動できる場をより多く設定し、自尊感情を育成する。 ・学校行事や生徒会活動の目標や趣旨を十分に理解させ、お互いに励まし、認め合う集団づくりを実践していく中で、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう諸活動を推進していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 評価項目 A18 の教職員の肯定的回答が 85%以上	○職員研修等を通して I C T 機器をはじめとした教具の効果的な活用を推進し、分かる授業への改善を図る。 ○習熟度別学習や T T など、指導形態を工夫し、個に応じたきめ細かな指導を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 19 の教職員の肯定的回答が 80%以上	・SCやMS、かがやきルーム指導員に週 1 回開催する教育相談部会に参加してもらい連携を図る。 ・地域コーディネーターと地域連携教員の連携を密にし、信頼関係を構築しながら業務を遂行する。 ・かがやきルームを活用し、生徒への学習支援を促進する。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 20 の教職員の肯定的回答が 80%以上	・会議のペーパーレス化、一斉メール配信による連絡の徹底など、効率化を意識した業務の改善を行う。 ・行事の見直しや校務分掌の再編成に取り組む。 ・各分掌の計画の段階から業務改善の視点を盛り込む。 ・ノー残業デーを月 1 回実施し、教職員の働き方に関する意識改善を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 評価項目 A 21 の教職員の肯定的回答が 80%以上	・生徒会を中心に合同のあいさつ運動を行ったり、ボランティア活動で交流したりすることにより、生徒の地域学校園の一員であるという意識を高める。 ・各教科において小中連携を意識した一貫性のある授業実践を行うために教科ごとに学習の PDCA サイクルを確立し、カリキュラムマネジメントの実現を図る。 ・学んだ知識や技能を活用する学習活動を意図的に実施し、思考力・判断力の育成を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 評価項目 A 22 の教職員の肯定的回答が 80%以上	・学校に隣接するコミセンを放課後の学習支援の会場とし、地域の講師が生徒に勉強を教える体制を作る。 ・地域協議会が中心となって地域の人材を募集し、図書館やバラ園などの環境整備ボランティアに参加する体制を作る。 ・生徒会と地域協議会との意見交換会を実施し、地域について考える機会を作る。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 23 の教職員と地域住民の肯定的回答がともに 80%以上	・若松原中学校地域協議会との連携を図ることを通して、地域の教育力を学校教育活動に生かせる場を設けていく。 ・地域や企業に本校の実態についての情報を積極的に発信することなどを通して、連携を深め、1 年生の「働く人に学ぶ」、2 年生の「社会体験学習」において、より効果的な学習が展開できるように努力していく。	【達成状況】 【次年度の方針】

本校の特色・課題等	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 評価項目 A24 の保護者と地域住民の肯定的回答がともに 80%以上	・施設の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が多数あるため、生徒の安全を第一に考えながら、市教委と連絡を密にし、計画的に修繕を進めていく。 ・毎月の安全点検を生徒と一緒にを行い、安全な学習環境をつくるとともに、生活安全に対する関心を高める。 ・地域協議会等で、施設整備に関して情報発信を行うなど、地域と一体になって取り組む。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 評価項目 A10A25 の教職員の肯定的回答が 80%以上	・情報担当者の責任のもと、ICT 機器の一括管理を行い、各教科の学習に必要な ICT 機器（デジタル教科書、デジタルカメラ等）の整備を行い、併せて教職員への周知を図る。 ・端末を使用して授業が行える環境を整備する ・図書館教育担当者が授業に使える図書の希望をとり、図書の充実を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B1 読書の習慣化を図り、心豊かな生徒を育成する。 【数値指標】 評価項目 B1 の生徒の肯定的回答が 80%以上	・学校図書館、学級文庫の整備を進めるとともに、「図書だより」や掲示物を活用して良書を積極的に紹介する。また、年間を通して朝の読書を定着させる。 ・読書推進活動を強化するとともに、家庭における読書時間の確保などに協力を仰ぎながら、読書意欲の向上につなげる。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B2 生徒は、毎日朝ごはんを食べている。 【数値指標】 評価項目 B2 の生徒の肯定的回答 90%以上	・朝ごはんを食べることによる学習面や生活面への効果を科学的に指導するとともに、各家庭への理解と協力を引き続きお願いしていく。 ○地域学校園としてお弁当の日を通して小学校から食への意識を高めていくことも実施する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B3 チャイムを守って授業にのぞんでいる。 【数値指標】 評価項目 B3 の生徒の肯定的回答が 85%以上	・生徒指導部と連携し、時間を守ることの大切さを掲示物等で P R し、また、教師自ら率先垂範し、生徒の意識を高めていく。 ・各クラスのリーダーや生徒会に働きかけ、「5 分前行動」「2 分前着席」の呼びかけを行い、時間を守るムードの醸成を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B4 居がいのある学校づくりのひとつとして生徒主体の学校行事に向け改善を図る。 【数値指標】 評価項目 B4 の生徒の肯定的回答が 85%以上	・生徒が達成感を得られるよう、計画的な準備と細かな点にも配慮された指導を心がける。 ・「生徒の生徒による生徒のための」学校行事となるよう、教職員が共通理解を図り、生徒の自主的な活動を促すことで、生徒の自尊感情の育成や他者理解を意図的に推進する。	【達成状況】 【次年度の方針】

	B 5 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 評価項目 B 5 の 教職員の肯定的回答が 85%以上	・生徒会で企画運営を行う地域のクリーン活動を行い、ボランティア精神を育てる。 ・地域の行事のポスターを貼って紹介するなど P R 活動によって参加を促す。 ・ボランティア委員会でボランティアカードを作成し、意欲を高める。	【達成状況】 【次年度の方針】
--	--	---	-------------------------------